

大和川水系西除川ブロック 河川整備計画（変更原案） についての住民説明会

本日の説明会のポイントと流れ

① 治水を河川から流域全体へ
(大阪府の新たな治水対策)

② 西除川ブロックの現状について
(大和川水系西除川ブロック河川整備計画(変更原案))

③ これからの西除川ブロックでの取組みについて
(大和川水系西除川ブロック河川整備計画(変更原案))

④ 洪水はん濫・浸水の危険性と地域での取組みについて
(洪水リスク表示図)

(質疑・応答)

①治水を河川から流域全体へ

河川整備計画とは

河川整備計画とは、河川整備基本方針に基づき、今後概ね**20～30年間**で計画的に行う河川の整備や管理における具体的な目標や内容を示すもの。

河川整備基本方針とは、将来の川のあるべき姿や河川整備の長期的な基本となる方針を治水・利水・環境について定めるもの。

河川整備計画の策定フロー

※河川法における治水・利水・環境とは、

治水：河川のはん濫を防ぐこと

利水：河川水を農業・工業・上水などに利用すること

環境：河川を中心とした水辺空間や多様な生物の生息・生育空間の保全

大阪府河川整備審議会（および治水部会など）において審議

河川整備計画（変更原案）

学識経験者からの意見

住民の皆様からのご意見

本日

内容の説明およびご意見の聴取

（後日、郵送・インターネット・FAX 等でも）

河川整備計画（変更原案）

住民の皆様のご意見を反映し修正したもの

河川整備審議会にて了承の場合

河川整備計画（変更案）

地方公共団体の長の意見

国土交通省の同意・認可

河川整備計画 **策定**

河川工事の実施へ

河川整備計画（変更原案）は、河川法に基づいて、学識経験者や地域住民の意見を聞きながら策定していきます。

① 治水を河川から流域全体へ

大阪府の新たな治水対策（今後の治水対策）

【基本的な理念】 人命を守ることを最優先とする。

【取組み方針】

- (1)現状での河川はん濫・浸水の危険性に対する府民の理解を促進する。
- (2)「逃げる」^に「凌ぐ」^{しの}施策を強化するとともに、「防ぐ」^{ふせ}施策を着実に実施する。
- (3)府民が対策の効果を実感できる期間（概ね10年）で実現可能な対策及び実施後の河川はん濫・浸水の危険性をわかりやすく提示する。

将来目標（長期計画）

府管理の全河川について、時間雨量80ミリ程度※¹の降雨でも、川があふれて、家が流され、人がなくなるようなことをなくす。

※¹ 時間雨量80ミリ程度の降雨は、100年に一度発生する恐れがある降雨

当面の治水目標

【今後20～30年の当面の治水目標】

時間雨量50ミリ程度※²の降雨で床下浸水を発生させない。

かつ、少なくとも時間雨量65ミリ程度※³の降雨で床上浸水を発生させない。

※² 時間雨量50ミリ程度の降雨は、10年に一度発生する恐れがある降雨

※³ 時間雨量65ミリ程度の降雨は、30年に一度発生する恐れがある降雨

① 治水を河川から流域全体へ

地先の危険度
低減に向けた

総合的・効果的な治水手法の組合せ

流出抑制(凌ぐ)

雨が降っても河川へ出る水量を減らす。
(家庭での貯留施設の設置やため池の治水活用など)

治水施設の保全・整備 (防ぐ)

河川堤防の決壊によるはん濫をできるだけ回避するなど、
河川を流れる水は可能な限りあふれさせない。
(河川改修・堆積土砂除去など)

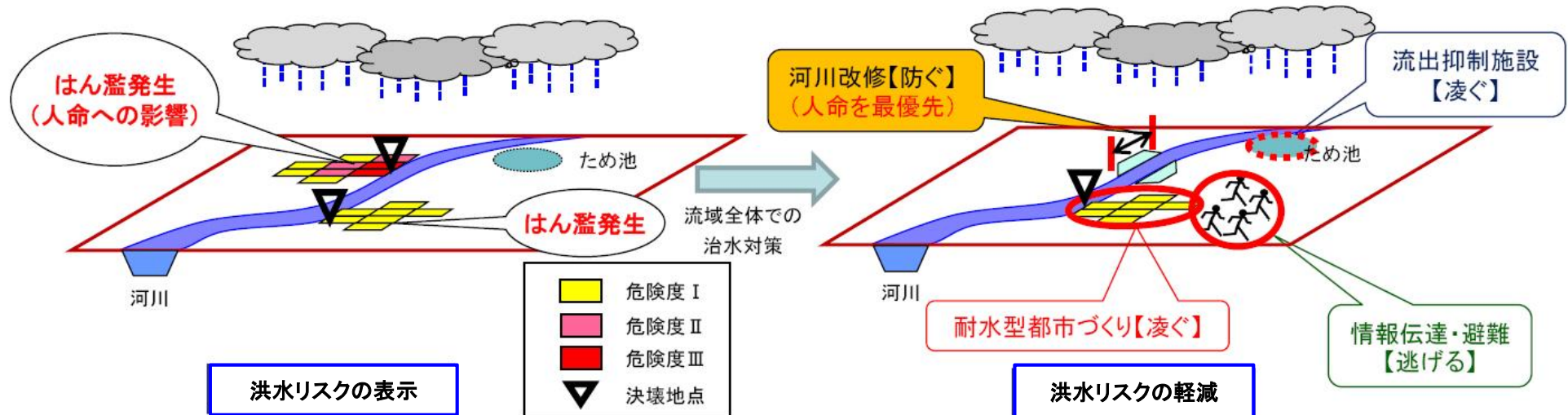
耐水型都市づくり(凌ぐ)

河川からあふれても被害が最小限となる街をつくる。
(家屋の耐水化・高床化などの促進)

情報伝達・避難(逃げる)

河川からあふれそうなときはできるだけ早く逃げる。
(洪水はん濫・浸水による危険性の周知、流域市と連携した避難体制づくり
の促進など)

<流域全体での治水対策イメージ>



② 西除川ブロックの現状について

■大和川水系西除川ブロック河川整備計画の策定(H17.5月)

- ・ 西除川・東除川水系の河川整備の当面の目標を定めたもの。
- ・ 計画対象期間：概ね15年

- ・ 大阪府の新たな治水対策の考え方に基づき、
各河川ごとに当面の治水目標を定めたこと。
 - ・ 上記、当面の治水目標に対する治水計画を検証したこと。
- 等

■大和川水系西除川ブロック河川整備計画（変更）の策定を行う。

② 西除川ブロックの現状について

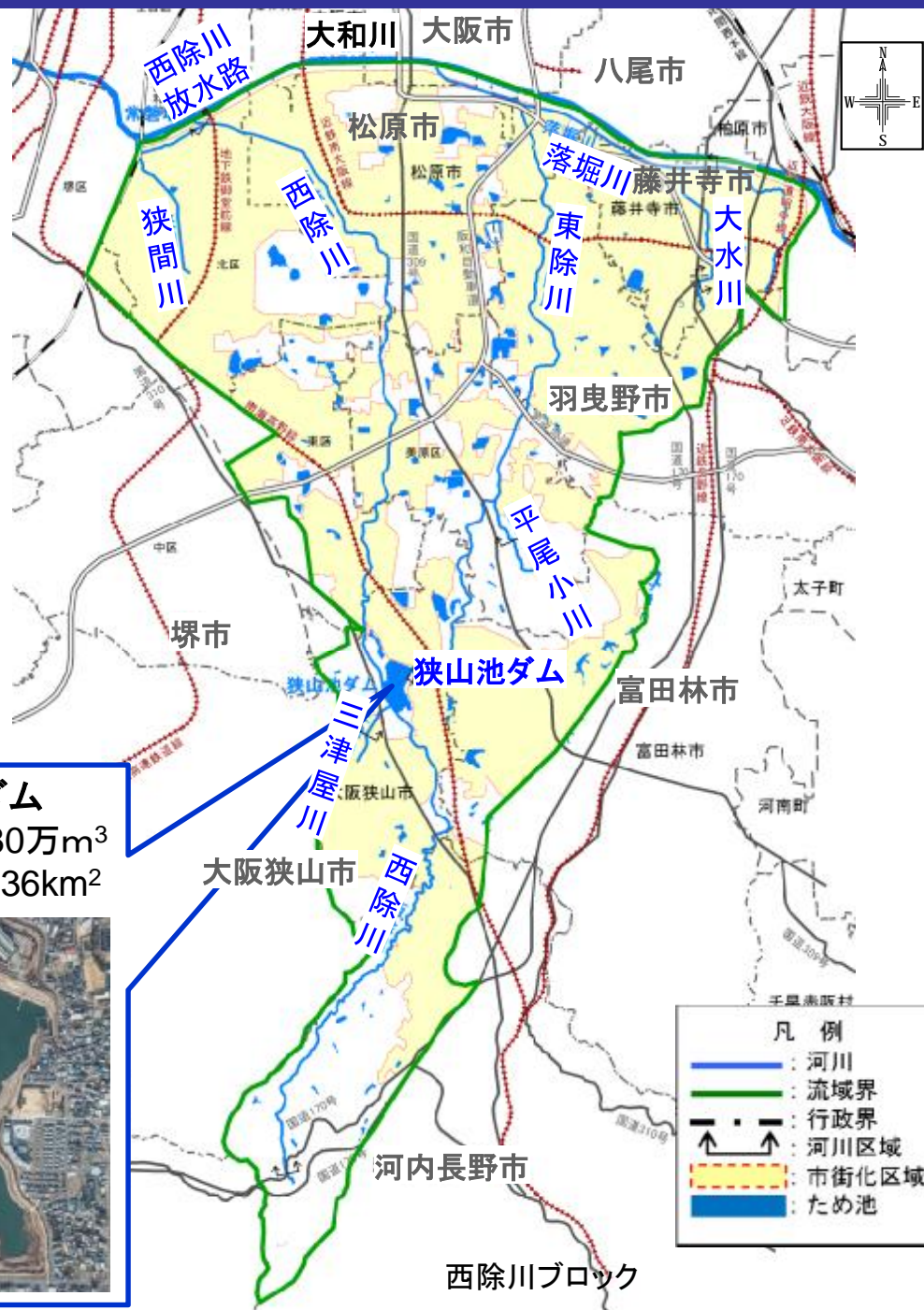
流域の概要

西除川ブロックは、1級河川大和川の支川である西除川・東除川・西除川放水路とそれらの支川(三津屋川・狭間川・落堀川・平尾小川・大水川)の流域で構成されています。ブロック全体の流域面積は89.0km²です。

流域は河内長野市、富田林市、大阪狭山市、堺市、羽曳野市、藤井寺市、松原市、大阪市、八尾市の9市にまたがっており、流域の大半が市街化区域に指定されています。また、流域内には155箇所のため池が点在しています。

一級河川			河川延長 (km)
1次	2次	3次	
西除川放水路			0.1
西除川			23.3
三津屋川			1.0
狭間川			2.34
東除川			13.7
落堀川			3.7
大水川			2.5
平尾小川			1.7

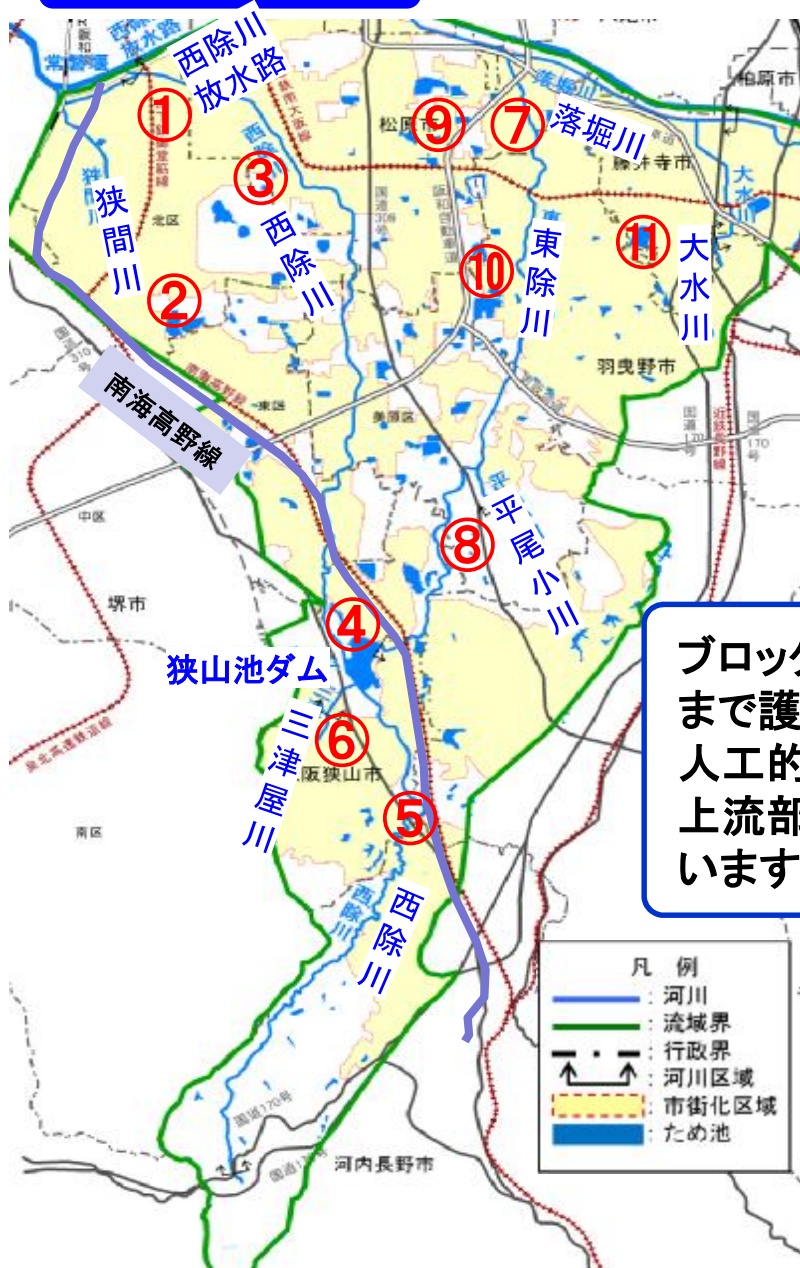
狭山池ダム
貯水容量:280万m³
湛水面積:0.36km²



西除川ブロック

② 西除川ブロックの現状について

河川の特徴



ブロック内の河川は、上流部まで護岸が整備されており、人工的な様相ですが、さらに上流部は豊かな自然が残っています。

①狭間川下流部



④西除川中流部



⑧平尾小川



②狭間川上流部



⑤西除川上流部



⑨東除川下流部



⑥三津屋川



⑩東除川中流部



③西除川下流部



⑦落堀川



⑪大水川



② 西除川ブロックの現状について

自然環境

西除川ブロックでは次のような動植物が確認されています。流域の大部分は市街地ですが、上流域には自然が多く残っています。

魚類：水系全体で28種確認（H23調査）

重要種：ウナギ、ヌマムツ、ドジョウ、メダカ、など

外来種：カダヤシ、ブルーギル、オオクチバス、カルムチー

底生動物：水系全体で63種確認（H23調査）

重要種：カワニナ、マシジミ、など

外来種：スクミリンゴガイ、アメリカザリガニ

鳥類：狭山池周辺で51種（昭和60年調査）、大泉緑地周辺で66種確認（調査年不明）

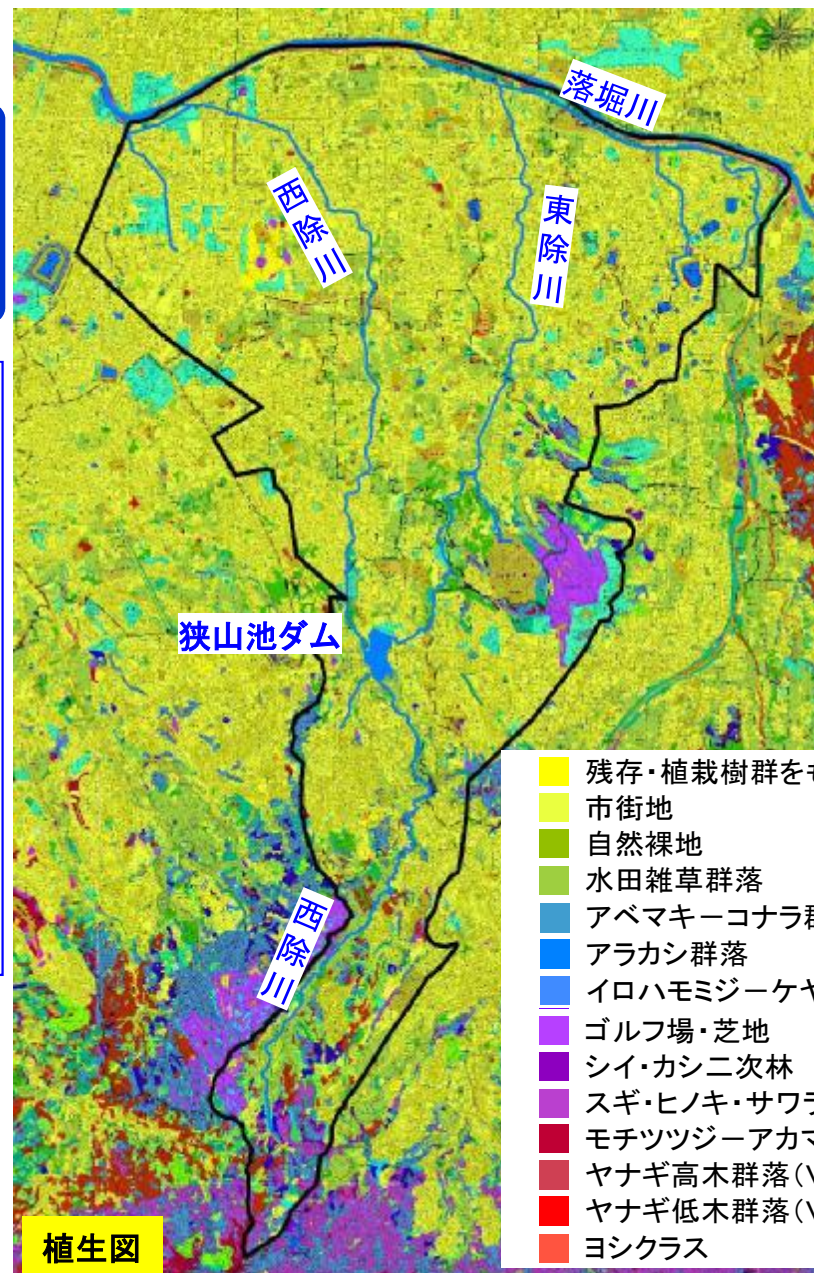
※西除川最上流の天野山は鳥獣保護区に指定されている。

重要種：オオタカ、コチドリ、など

昆虫類：狭山池上流部の旧河道周辺では、ヒメボタルが

確認されており、地元で保全活動が行われている。

重要種：ベニイトトンボ、ギンイチモンジセセリなど



② 西除川ブロックの現状について

水質

- Ⅰ 水系全体では近年の水質は改善傾向にあり、西除川・東除川のBOD75%値では、環境基準値を満足しています。
- Ⅰ 西除川の狭山池ダム上流の環境基準値はB類型で、アユ等が生息できるようなきれいな水が流れています。
- Ⅰ 一方で、狭山池下流の西除川の環境基準値は一般に魚の生息に適さないとされるD類型と低い状況です。
- Ⅰ 狭山池ダムでは富栄養化によりアオコが発生しており、対策を検討中です。



狭山池まつり実行委員会提供

狭山池ダムアオコ発生状況(東除川洪水吐付近)

水量

- Ⅰ 水系全体に水量は少なく、取水堰等の河川横断構造物による瀬切れが発生しています。



横断工作物による瀬切れ薬師井堰(西除川)

水利用

- Ⅰ 古くから狭山池などのため池や河川・水路及び取水堰を活用した水利用が行われています。

② 西除川ブロックの現状について

治水の現状と課題

- 西除川（狭山池ダム下流部）
昭和43年より全体計画を定め河川改修を実施中
昭和57年8月の水害を契機に災害復旧事業に着手
昭和60年度には西除川放水路が完成
- 西除川（狭山池ダム上流部）
昭和56年より天野大橋までの全体計画を定め河川改修を実施中
- 東除川
昭和39年に改修着手
昭和58年に全体計画を定め河川改修を実施中
- 落堀川
昭和61年に全体計画を定め河川改修完成
現在、大和川の背水対策を実施中
- 狭山池ダム
昭和57年8月の水害を契機に、
昭和63年に狭山治水ダム全体計画を定め平成12年に完成
- 狭間川
昭和57年8月の水害を契機に昭和60年から改修に着手
小今池上流区間の河川改修を実施中

昭和57年8月豪雨(台風10号)

西除川流域、東除川流域ともに被害を受けました。

特に、西除川下流部で床上浸水1,184戸・床下浸水1,862戸という甚大な被害を受けました。



② 西除川ブロックの現状について

河川利用及び河川環境の現状と課題（空間利用・自然環境・景観）

- Ⅰ 河川周辺は、部分的に遊歩道の整備が行われ、散歩道として利用されています。
- Ⅰ 「アドプトリバープログラム」には水系全体で9団体が登録されており、美化活動等が行われています。
- Ⅰ 「狭山ヒメボタルを守る会」では西除川旧川でヒメボタルの保護活動や、環境整備などの活動が行われています。
- Ⅰ 平成12年より毎年行われている「狭山池まつり」では、花火、模擬店、野鳥観察など様々なイベントが行われています。

<課題>

- ▶ 急激な水位上昇などに対する安全性の確保
- ▶ 地域活動の継続



西除川旧川に整備された遊歩道



ヒメボタル保護活動



狭山池まつり

- Ⅰ 西除川ブロックの河川は、流域に点在するため池とともに重要な水辺環境となっています
- Ⅰ 取水堰や床止めなど数多くの河川横断構造物が設置されており生物の移動に影響を与えています。
- Ⅰ 西除川ブロックの河川は、ほとんどの区間で市街地を流れており、一部を除いてコンクリートブロック護岸等が連続するため、全体的に人工的な景観となっています。



<課題>

- ▶ 上下流の水域連続性の確保
- ▶ 水と緑の豊かな景観づくり

② 西除川ブロックの現状について

流域の将来像

Ⅰ 大阪府の土地利用計画

南河内地域は、恵まれた自然条件、歴史・文化的条件等を活かし、既成市街地の住環境の向上を図るとともに、自然環境の保全に十分配慮しつつ、自然と共生する住宅地の形成を図る。

Ⅰ 大阪府の新環境総合計画

みどりの連続性を強化し、海～街～山をつなぐ「みどりの軸」を創出するとともに、「周辺山系など既存のみどりの保全・再生」、「みどりの量的充足」、「みどりの質の向上」を図るため、広域的なみどりのネットワークを構築し、実感出来るみどりづくりを推進することとしています。

Ⅰ 流域関係市

大阪狭山市で狭山池ダムや西除川、東除川の水辺環境の保全・整備、水と緑のネットワーク化を進めることとなっているほか、河川の沿河市では河川沿いの遊歩道整備や、周辺の公園等とのネットワーク化を図る方針となっています。

③ これからの西除川ブロックでの取組みについて

河川整備計画の目標

西除川 狭山池ダム下流区間	現況	●未改修区間が僅かであることから下流改修済区間との治水バランスをはかる。 ● 当面の治水目標は、現在進めている時間雨量80ミリ程度（現計画規模）とする。
西除川 狭山池ダム上流区間	現況	●時間雨量50ミリ程度の降雨で危険度Ⅱ、Ⅲの被害が想定される。
	50ミリ 対策後	●時間雨量65ミリ・80ミリ程度の降雨で、人命への影響を及ぼす危険度Ⅱ、Ⅲの被害は想定されない。 ⇒ 当面の治水目標は、時間雨量50ミリ程度対策とする。
三津屋川	現況	●時間雨量50ミリ程度・65ミリ程度・80ミリ程度・90ミリ程度の降雨で被害が想定されない。 ⇒ 現状で目標治水レベルを達成のため、治水対策は実施しない。
狭間川	現況	●時間雨量50ミリ程度の降雨で危険度Ⅰ、Ⅱの被害が想定される。
	50ミリ 対策後	●時間雨量65ミリ・80ミリ程度の降雨で危険度Ⅱ、Ⅲの被害が想定されない。 ⇒ 当面の治水目標は、時間雨量50ミリ程度対策とする。
東除川	現況	●時間雨量50ミリ程度の降雨により危険度Ⅰ、Ⅱが想定される。
	50ミリ 対策後	●時間雨量65ミリ、80ミリ程度の降雨で、人命への影響を及ぼす危険度Ⅱ、Ⅲの被害は想定されない。 ⇒ 当面の治水目標は、時間雨量50ミリ程度対応とする。 (大和川合流点～大阪中央環状線(L=2.1km)までは、80ミリ程度対応済)
落堀川	現況	●大和川の背水対策の完成により、時間雨量80ミリ程度に対応した治水安全度を確保。 ⇒ 大和川の背水対策を実施する。
大水川	現況	●時間雨量50ミリ・65ミリ・80ミリ程度の降雨で被害が想定されない。 ⇒ 現状で目標治水レベルを達成のため、治水対策は実施しない。
平尾小川	現況	●時間雨量50ミリ・65ミリ・80ミリ程度の降雨で、人命への影響を及ぼす被害は想定されない。 ⇒ 現状で目標治水レベルを達成のため、治水対策は実施しない。

上記の目標により、西除川ブロックでの治水レベルが大阪府の当面の治水目標※を達成

当面の治水目標：時間雨量50ミリ程度の降雨で床下浸水を発生させない。

かつ、少なくとも時間雨量65ミリ程度の降雨で床上浸水を発生させない。

③ これからの西除川ブロックでの取組みについて

河川整備計画の目標

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

Ⅰ 今後とも、適正かつ効率的な水利用が図られるよう努める。

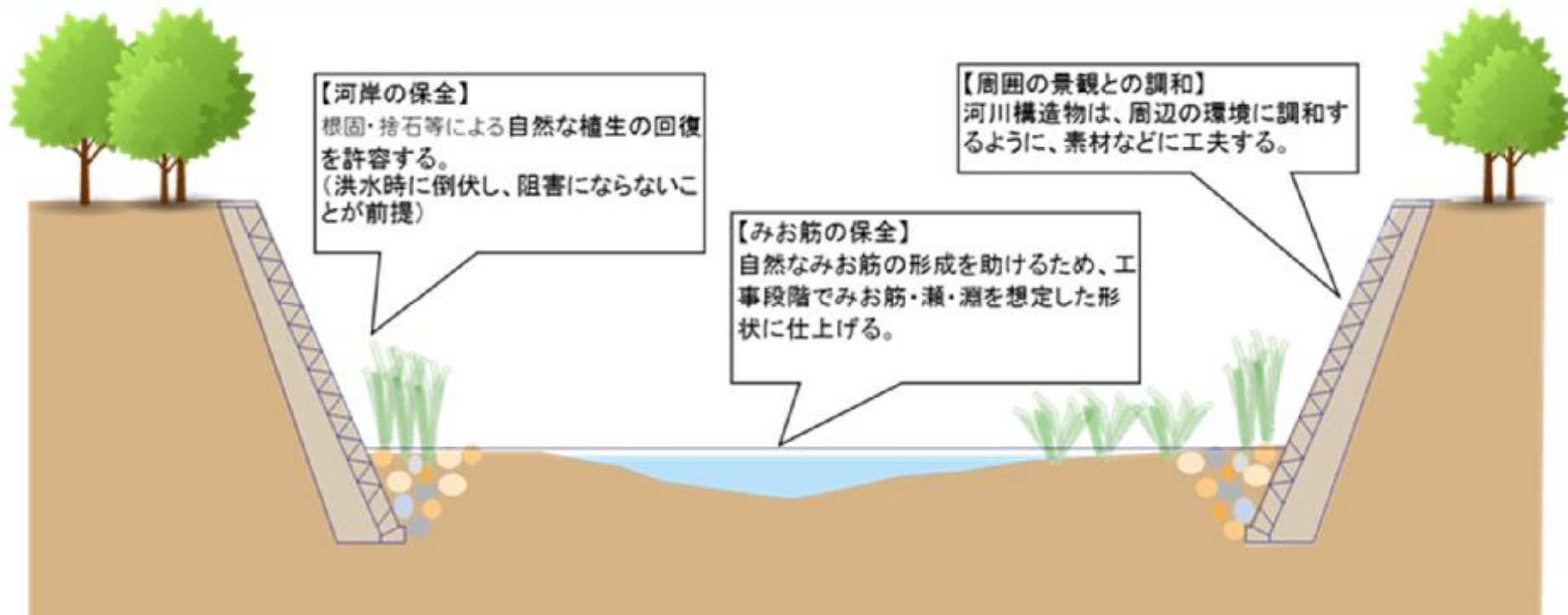
河川環境の整備と保全

Ⅰ 河川の魚類や水生生物のより適切な生育環境の配慮に努める。

Ⅰ 水質については、平成 24年2月に策定された「大和川水系水環境改善計画」の推進に努める。

Ⅰ 狭山池ダムでは、アオコ対策に取り組む。

Ⅰ 河川の水面活用については、親水空間整備箇所を安全に利用できる環境づくりを行う。



多自然川づくりイメージ図

③ これからの西除川ブロックでの取組みについて

計画対象区間、期間

計画対象区間

Ⅰ 西除川水系及び東除川水系の一級河川指定区間

Ⓟ 洪水対策：西除川、東除川、狭間川

Ⓟ 背水対策：落堀川

Ⓟ 維持管理等：西除川水系及び東除川水系の一級河川指定区間

※三津屋川、平尾小川、大水川については、現況において府域での今後20～30年程度で目指すべき当面の目標を確保できている。

計画対象期間

Ⅰ 計画策定から概ね30年

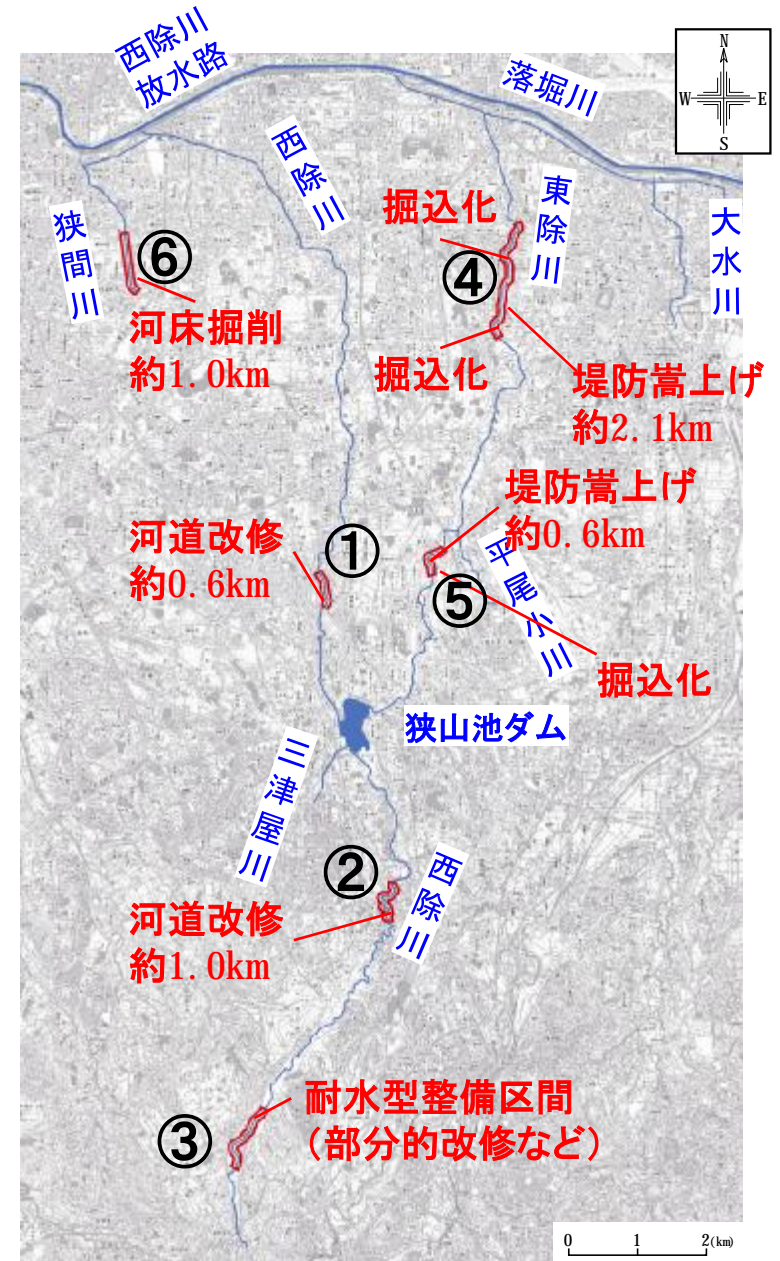
③ これからの西除川ブロックでの取組みについて

洪水対策

Ⅰ 西除川、東除川、狭間川では、当面の治水目標に従い、整備対象区間において、河道拡幅・河床掘削・堤防嵩上げ・河道の掘込化（堤内地盤の嵩上げ）等による洪水対策を行います。

河川名	整備対象区間		整備延長
西除川 (狭山池ダム下流)	①	改進黨下流～南海高野線 (9.8km～10.4km)	約0.60km
西除川 (狭山池ダム上流)	②	草沢橋～天野橋 (15.9km～16.9km)	約1.00km
	③	天野橋上流～上条橋 (17.1km～22.8km)	約5.70km
東除川	④	新高鷺橋～新伊勢橋 (3.5km～5.6km)	約2.10km
	⑤	管生橋～福井橋 (9.9km～10.5km)	約0.60km
狭間川	⑥	新金岡橋～更池橋上流 (1.4km～2.4km)	約1.00km

耐水型整備区間:「人命を守ることを最優先とする基本的な理念」のもと、中流部より上流部において優先して治水対策を講じる必要がある場合には、中流部と上流部を併せて『耐水型整備区間』と位置付け、浸水リスクが中流部など他の地域へ顕著に転嫁することがないように、部分的改修、さらには流出抑制、耐水型都市づくりなどあらゆる手段を組み合わせ、効果的かつ効率的な浸水リスクの低減に取り組むこととしています。



③ これからの西除川ブロックでの取組みについて

河川整備の内容

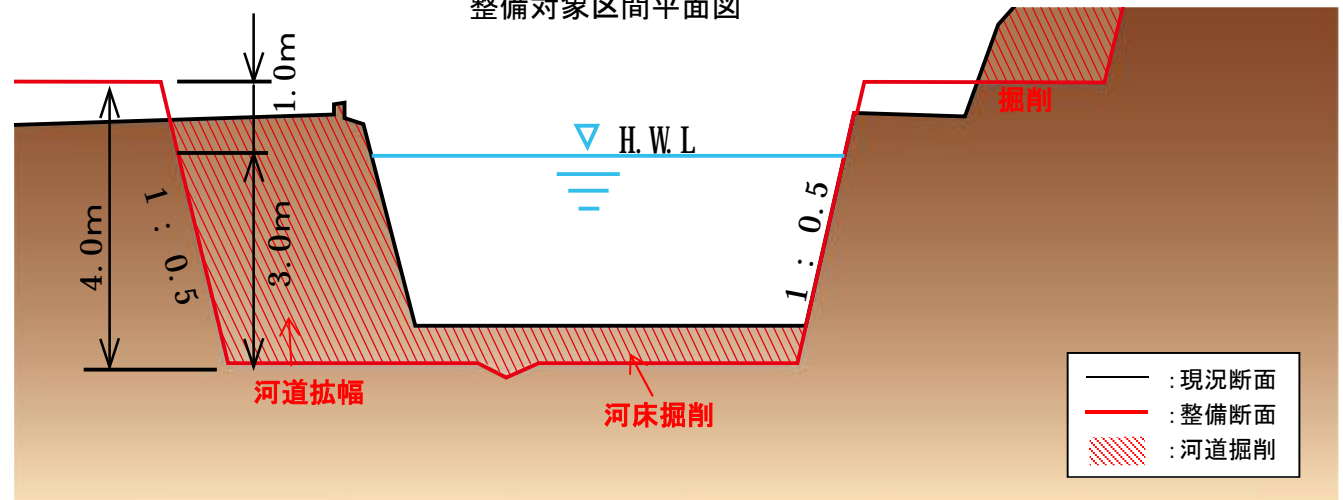
①西除川（狭山池ダム下流区間）

目標：西除川（狭山池ダムより下流）では、時間雨量80ミリ程度の降雨による洪水を対象に整備を行います。



河川名	整備対象区間	整備内容
西除川 (狭山池ダムより下流)	改進黨下流～南海高野線 (9.8km～10.4km)	河道拡幅及び河床掘削により流下能力を確保します。 河道改修の際には河岸やみお筋の保全、周囲の景観との調和に配慮し、上下流の連続性の確保に努めます。

整備対象区間平面図



整備断面例(10.0km地点)

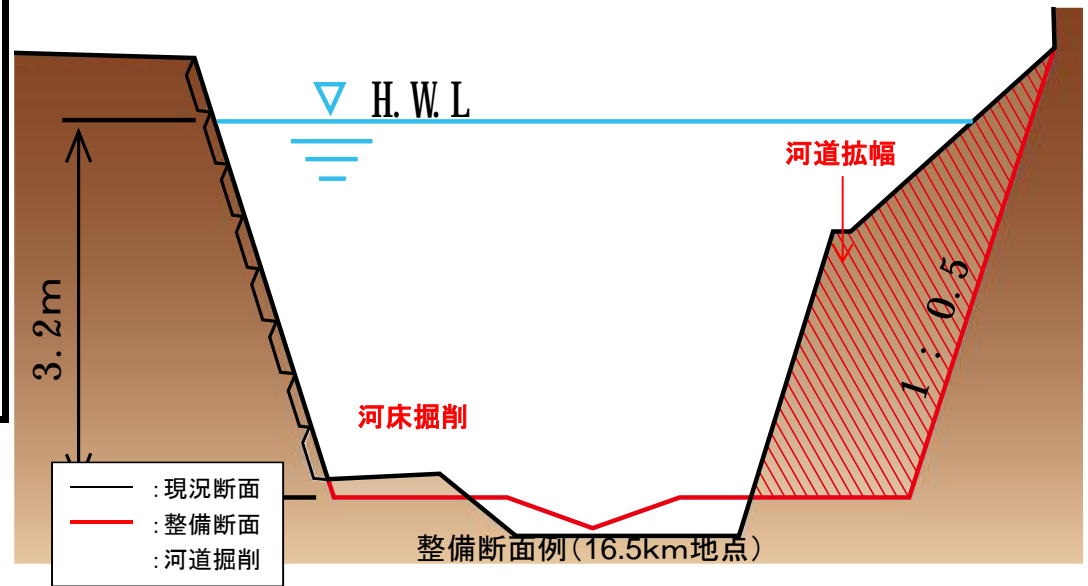
③ これからの西除川ブロックでの取組みについて

河川整備の内容

②西除川（狭山池ダム上流区間）

目標：西除川（狭山池ダムより上流）では、時間雨量50ミリ程度の降雨による洪水を対象に整備を行います。

河川名	整備対象区間	整備内容
西除川 (狭山池ダムより上流)	草沢橋 ～天野橋 (15.9km ～16.9km)	河道拡幅及び河床掘削により流下能力を確保します。 河道改修の際には河岸やみお筋の保全、周囲の景観との調和に配慮し、上下流の連続性の確保に努めます。
	天野橋上流 ～上条橋 (17.1km ～22.8km)	耐水型整備区間として、流域市と連携し、土地利用誘導および浸水が想定される土地の居住者等に対して洪水氾濫・浸水の危険性を周知し、自主的な避難行動を促す等、ソフト対策に取り組むとともに、河道拡幅のみではなく宅地嵩上げ等のハード対策について実施します。



Ⅰ 中上流区間は、耐水型整備区間として、柔軟な整備手法を適用することとし、総合的な検討を引き続き実施する。



宅地嵩上げ・ピロティ

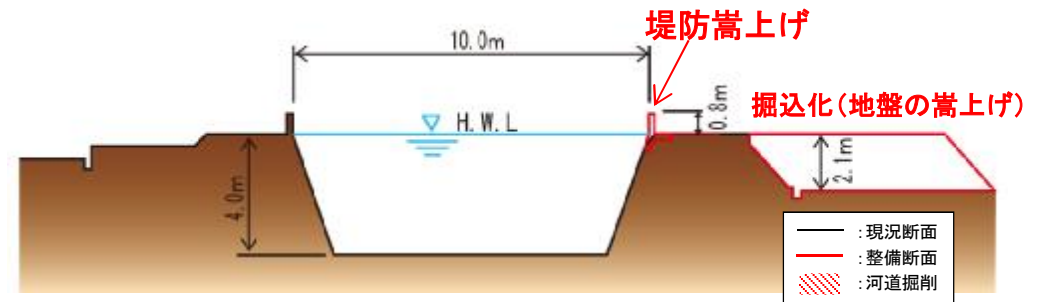
③ これからの西除川ブロックでの取組みについて

河川整備の内容

③東除川

目標：東除川では、時間雨量50ミリ程度の降雨による洪水を対象に整備を行う。

河川名	整備対象区間	整備内容
東除川	新高鷲橋～新伊勢橋 (3.5km～5.6km)	築堤区間では破堤が生じる可能性があるため、堤内地盤の嵩上げ(掘込化)を実施します。 掘込区間では、堤防の嵩上げを行い、流下能力を確保します。
	管生橋～福井橋 (9.9km～10.5km)	築堤区間では破堤が生じる可能性があるため、堤内地盤の嵩上げ(掘込化)を実施します。 掘込区間では、堤防の嵩上げを行い、流下能力を確保します。



整備断面例(5.0km地点)

③ これからの西除川ブロックでの取組みについて

河川整備の内容

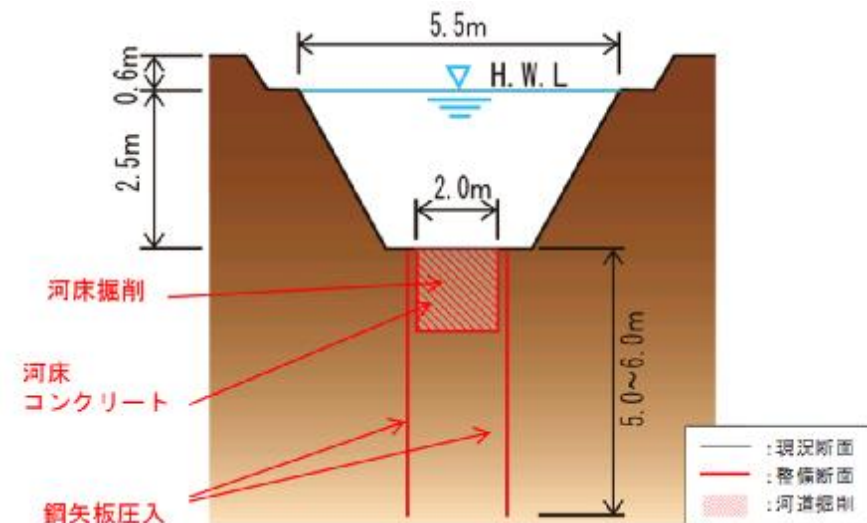
④ 狭間川

目標：狭間川では、時間雨量50ミリ程度の降雨による洪水を対象に整備を行います

河川名	整備対象区間	整備内容
狭間川	新金岡橋～更池橋上流 (1.4km～2.4km)	鋼矢板圧入による根継工及び河床掘削を行い、流下能力を確保します。



整備対象区間平面図



整備断面例(1.6km地点)

③ これからの西除川ブロックでの取組みについて

河川整備の内容

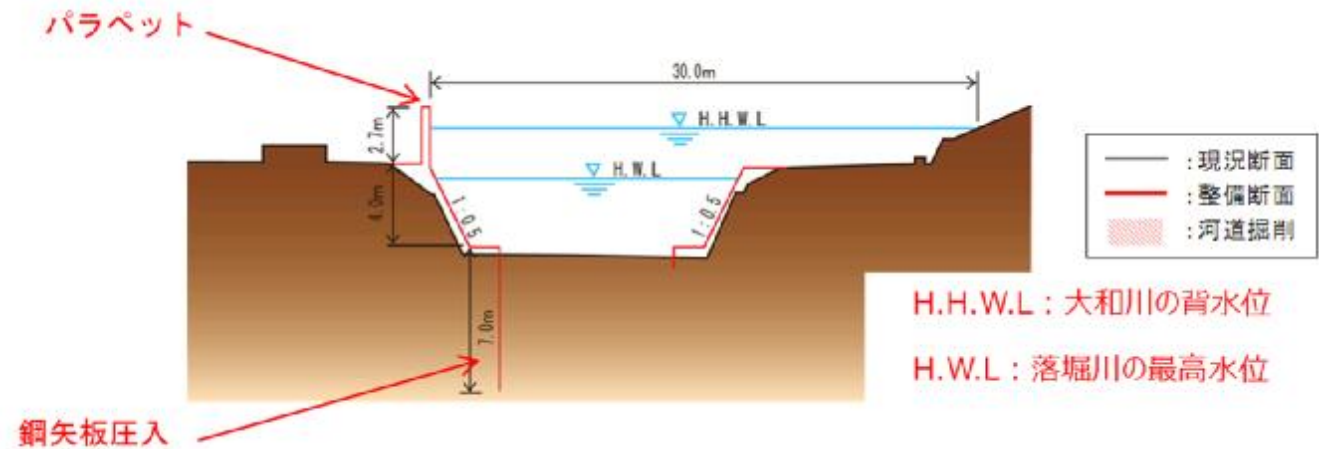
① 落堀川

目標：落堀川では、大和川の背水対策を実施します。

河川名	整備対象区間	整備内容
落堀川	新落堀橋上流～中橋上流 (0.4km～0.8km)	大和川の背水対策として パラペットの整備等を実施 します。



整備対象区間平面図



整備断面例(0.5km地点)

③ これからの西除川ブロックでの取組みについて

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持の内容

- Ⅰ 流水の正常な機能の維持し適正な河川管理を行うため、継続的な雨量、水位の観測データの蓄積と分析による水量の状況把握を行います。

河川環境の整備と保全の内容

- Ⅰ 利用実態のない井堰の撤去、落差工の改善と合わせて水域の連続性の確保に努める。整備にあたっては、流域市や地域住民等と協力して、水生生物の生息状況の確認や整備効果について予測・検証を行います。
- Ⅰ 河川環境の整備と保全に関しては、それぞれの流域が持つ歴史・文化・景観や多様な自然環境に配慮し、各地域の特徴を行かした河川整備、維持管理を行う。
また、西除川の今井南橋下流では、旧河川敷等を利用して遊歩道整備を行います。

水質の改善の内容

- Ⅰ 流域市の環境部局における行政指導や下水道施設等による水質改善とともに、地域住民や学校、NPOと連携し、河川への生活排水による河川への負担軽減に向けた環境教育・学習の推進及び啓発活動等を進めることにより水質改善に努めます。
- Ⅰ 狭山池ダムでは、アオコ発生原因について、流域も含めて検討し、必要な対策を実施します。

③ これからの西除川ブロックでの取り組みについて

河川の維持管理

- Ⅰ 河川管理施設 ⇒ 構造物の損傷、劣化状況等の把握に努め、補修箇所の優先順位を定めて計画的に補修を行う。また、河道特性や河川管理施設の情報を整理・蓄積し、河川カルテを作成するとともに維持管理計画を策定して、計画的かつ効率的な維持管理を行います。
- Ⅰ 土砂の堆積・植生の繁茂等 ⇒ 状況を定期的に調査し、阻害率の高い区間を把握するとともに、地先の危険度等を考慮して計画的に土砂掘削等の対策を行います。
- Ⅰ 河床低下 ⇒ 現地状況に応じて多自然川づくりの必要性を検討し適切な工法により対策を実施します。
- Ⅰ 許可工作物 ⇒ 井堰や橋梁等、河川管理者以外が管理を行う許可工作物については、施設管理者に対して河川管理施設と同等の点検・補修を行わせるなど、河川の疎通能力を低下させないよう適正な維持管理を指導します。
- Ⅰ 河川空間 ⇒ 定期的に河川パトロールを行うとともに、地域や関係機関との連携によって監視体制を重層化します。また、地域住民、NPO、自治体等と協働で河川美化活動を行うことにより地域住民等の意識を高め、ゴミのないきれいな河川空間の維持に努めます。



河川管理施設（構造物の損傷）



河川巡視



狭山池クリーンアクション

③ これからの西除川ブロックでの取り組みについて

地域や関係機関との連携

- Ⅰ ため池の雨水貯留機能の保全やため池管理者に対して大雨に備えるための水位低下の呼びかけを実施します
- Ⅰ 地域住民に対する各戸貯留による流出量低減に関する意識向上の啓発活動の推進します
- Ⅰ 取水堰の運用や構造、水利用について農業関係機関と連携し、水環境の一層の向上に向けた連携を推進します
- Ⅰ 地域住民が中心となった「アドプト・リバー・プログラム」等、水辺空間を活用した地域活動を促進するための支援します
- Ⅰ 多様な主体との協働・連携を図り、良好な河川環境の維持に努めます

○雨が降っても河川に流出する量を減らす。

⇒流出抑制

○河川堤防の決壊による氾濫をできるだけ回避するなど、
河川へ出てきた水は可能な限りあふれさせない。

⇒治水施設の保全・整備

○河川からあふれても被害が最小限となる街をつくる。

⇒耐水型都市づくり

○河川からあふれそうなときはできるだけ早く逃げる。

⇒情報伝達・避難



金岡地区（堺市）



アドプト活動（三津屋川を美しくする会）



③ これからの西除川ブロックでの取組みについて

皆さんのご意見をおねがいします

西除川ブロックの各河川に関する河川整備計画(変更原案)について詳しい内容について知りたい方

(1)大阪府都市整備部河川室のホームページに掲載しています。

(アドレス http://www.pref.osaka.jp/s_kasen/)

(2)以下の場所で資料を備え付けています。

大阪府府政情報センター(大阪府庁本館1階)

大阪府都市整備部河川室(大阪府庁別館4階)

大阪府富田林土木事務所(南河内府民センタービル3階)

大阪府富田林土木事務所松原建設事業所(成協信用組合ビル6階)

堺市役所高層館20階(河川水路課)および各区役所市政情報コーナー、

八尾市役所西館3階(土木総務課)、富田林市役所4階(水路耕地課)、

河内長野市役所5階(下水道工務課)、松原市役所7階(上下水道建設室)、

羽曳野市役所別館4階(下水道建設課)、藤井寺市役所4階(道路水路課)、

大阪狭山市役所2階(下水道グループ)

閲覧と意見募集期間は、
1月27日(月)から
2月7日(金)まで



ご意見をいただける方

《郵送・FAXの場合》

〒584-0031

富田林市寿町2丁目6-1 南河内府民センタービル内

大阪府 富田林土木事務所 建設課 河川砂防グループ あて

FAX 072-125-6109

《電子メールの場合》

メールアドレス tondabayashi.doboku-g01@sbox.pref.osaka.lg.jp

いただいたご意見を踏まえ、
河川整備計画の検討を進
めてまいります。



④ 洪水はん濫・浸水の危険性と地域での取組み

洪水はん濫・浸水の危険性の公表

様々な降雨により想定される地先の洪水はん濫や浸水の危険性を理解いただき、住民自らの地域の状況に応じた避難行動により洪水はん濫・浸水による被害の低減を目指します。

【具体的取組み】

- ①住民への現状の洪水はん濫・浸水による危険性の周知。
- ②住民が的確に判断し行動するために必要な情報の提供・伝達。
- ③住民自らが行動できる体制づくりと情報伝達や避難の訓練の実施。

洪水はん濫・浸水の危険性の周知

現況での洪水はん濫・浸水の危険性に対する地域住民の理解を促進するため、西除川ブロックの各河川では平成24年8月に洪水リスク表示図を開示しています。

この表示図では、現況の河道で時間雨量50ミリ（1/10年）、65ミリ（1/30年）、80ミリ（1/100年）及び90ミリ（1/200年）降雨時の4パターン（発生しやすい大雨から想定を超える大雨まで）のはん濫シミュレーション結果を最大浸水深（7段階）と危険度（3段階）の2パターンで表示しています。

【開示方法】

大阪府都市整備部河川室のホームページに掲載

大阪府富田林土木事務所、富田林土木事務所松原建設事業所および各市役所にて縦覧

降雨の説明(イメージ)

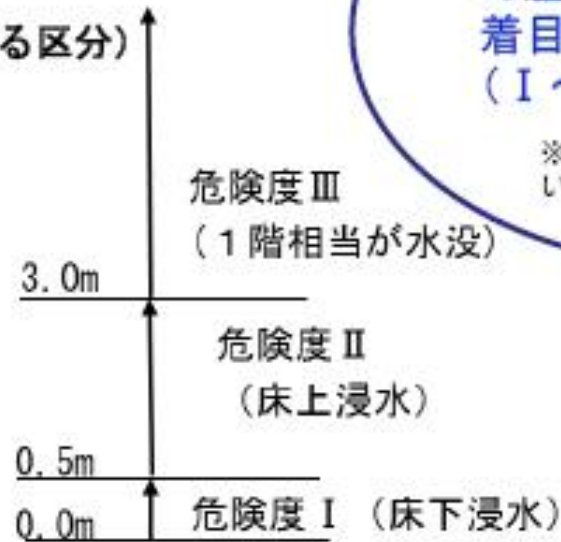
降雨確率	1/10	1/30	1/100	1/200
降雨規模	概ね50mm/hr	概ね65mm/hr	概ね80mm/hr	概ね90mm/hr
気象予報用語	非常に激しい雨		猛烈な雨	
人の受けるイメージ	滝のように降る(傘は全く役に立たない)		息苦しくなるような圧迫感がある	
災害発生状況	内水氾濫、地下街浸水、土砂災害		大規模な災害の発生	



④ 洪水はん濫・浸水の危険性と地域での取組み

地先の洪水はん濫・浸水による被害の区分

◆ 想定浸水区分 (水に浸かる深さによる区分)



現状の地先の河川はん濫・浸水による被害に着目し、3段階の危険度 (Ⅰ～Ⅲ) に区分します。

※地先とは、みなさんがお住まいの場所を指します。

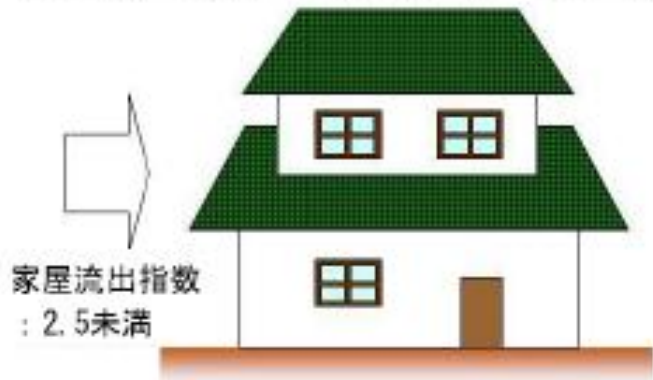


洪水リスク図では、こんな表記です。



◆ 家屋流出指数による区分

(洪水の流れの強さによる区分)



※家屋流出指数とは、はん濫水の流速と水深によって決まる値で、はん濫水の流れが引き起こす力のことです。

危険度Ⅲ (木造家屋が流出する危険性あり)

凡例 (危険度)	
■ (Yellow)	危険度Ⅰ
■ (Light Blue)	危険度Ⅱ
■ (Red)	危険度Ⅲ
✕ (Red)	破堤地点
✕ (Orange)	溢水地点

④ 洪水はん濫・浸水の危険性と地域での取組み

現況における洪水はん濫・浸水の危険性

現状の西除川ブロックにおいて、はん濫シミュレーションを行なっています。ただし、はん濫シミュレーションには内水浸水を含んでいません。

※内水浸水とは、下水道の雨水排水能力を超えることにより生じる浸水。

現況 時間雨量50ミリ（10年に1度の確率降雨）



現況 時間雨量65ミリ（30年に1度の確率降雨）



凡例（危険度）	
■	危険度Ⅰ
■	危険度Ⅱ
■	危険度Ⅲ
×	破堤地点
×	越水地点

④ 洪水はん濫・浸水の危険性と地域での取組み

現況における洪水はん濫・浸水の危険性

現状の西除川ブロックにおいて、氾濫シミュレーションを行なっています。ただし、はん濫シミュレーションには内水浸水を含んでいません。

現況 時間雨量80ミリ（100年に1度の確率降雨）



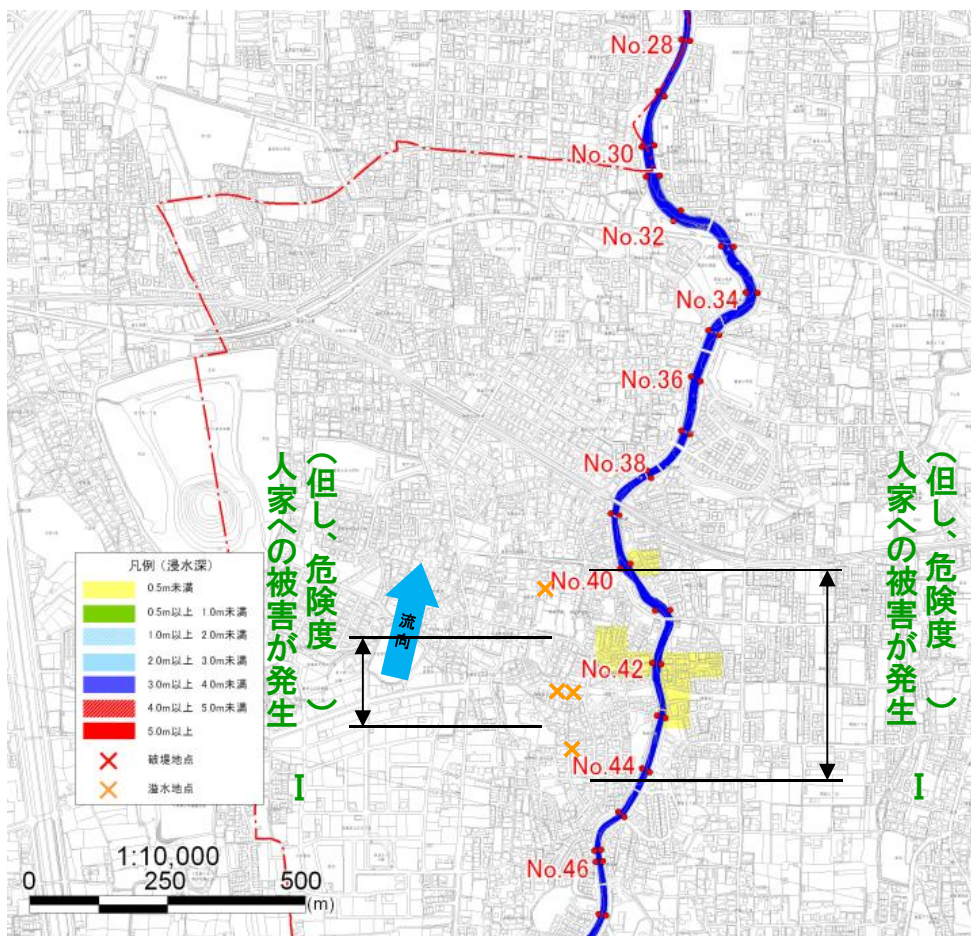
現況 時間雨量90ミリ（200年に1度の確率降雨）



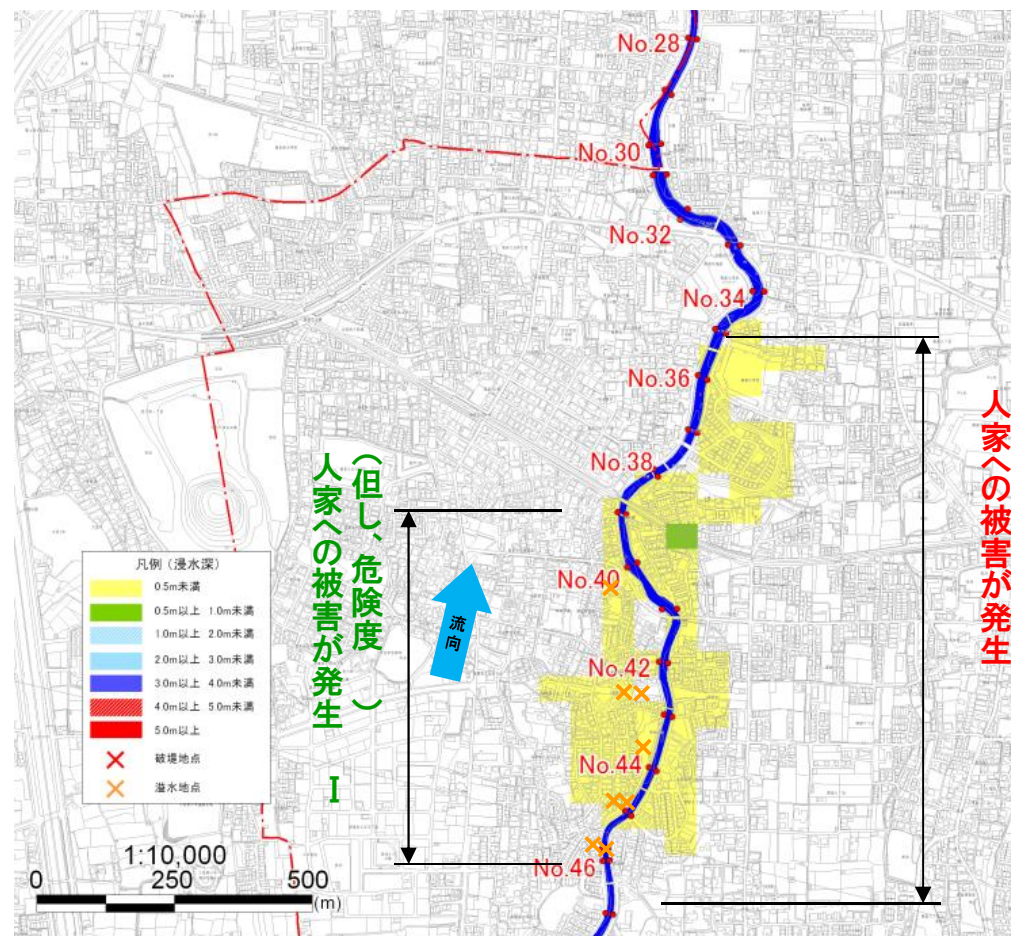
4. 当面の治水目標の設定【東除川：50ミリ対策河道における氾濫解析】

東除川における当面の治水目標(時間雨量50ミリ)の整備後におけるはん濫シミュレーション結果です。ただし、はん濫解析には内水浸水を含んでいません。

■ 氾濫解析結果(浸水深) 対象降雨:時間雨量80ミリ程度



■ 氾濫解析結果(浸水深) 対象降雨:時間雨量90ミリ程度



※被害最大となる破堤地点での破堤を想定(1洪水)

④ 洪水はん濫・浸水の危険性と地域での取組み

大阪府などによる情報提供

大阪府などでは、河川のはん濫や浸水に対して、流域関係市と連携し、府民が的確に避難行動を取れるよう情報提供をしていきます。

防災情報

【おおさか防災ネット】

<http://www-cds.osaka-bousai.net/pref/index.html>



防災情報を携帯電話で入手できます。
下のQRコードを携帯電話で読み込むか、下記アドレスを入力し、空メールを送信してください。

防災情報メール

地域に発令された警報・注意報、避難勧告など、防災情報をメールで携帯にお知らせします。
touroku@osaka-bousai.net



川の防災情報

雨雲の動きや全国の川の水位などの情報を携帯電話で入手できます。
<http://i.river.go.jp/>
直接アクセスしてください。



大阪府河川情報

身近な河川の水位や雨量の情報を携帯電話で入手できます。
<http://www-cds.osaka-bousai.net/suibou/mobile/index.html>
直接アクセスしてください。



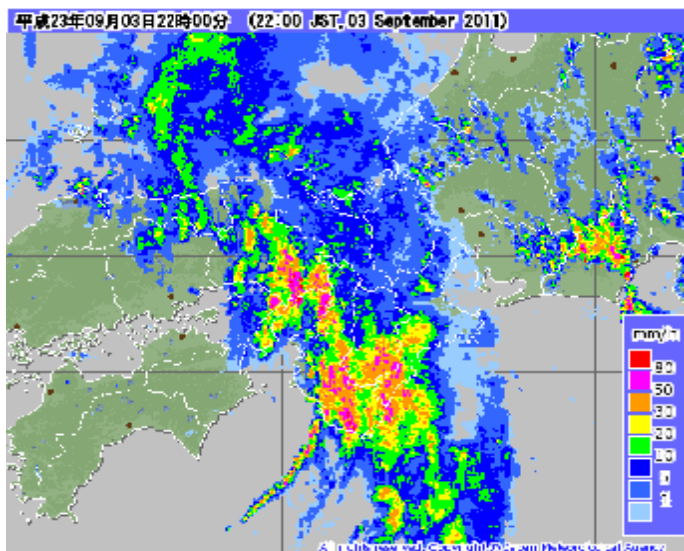
④ 洪水はん濫・浸水の危険性と地域での取組み

大阪府などによる情報提供の取組み

気象情報

【気象庁】

<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>



気象庁では気象予報のほか、レーダによる降水状況などの情報を提供しています。

(出典:気象庁ホームページより)

【国土交通省 防災情報提供センター】

<http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/>

<携帯サイト>

<http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/i-index.html>

【国土交通省 XバンドMPLレーダー雨量情報】

<http://www.river.go.jp/xbandradar/index.html>

NHKではデジタル放送のデータ放送を利用して、河川の水位・雨量の情報を提供しています。



視聴方法

NHK放送画面の時に、リモコンの「d」ボタンを押す

TOPメニューの「生活・防災情報」を選んで決定ボタンを押す。

「河川・雨量情報」を選んで決定ボタンを押す。

受信機に登録されている郵便番号を判別し、お住まいの地域の地図画面が表示されます。

④ 洪水はん濫・浸水の危険性と地域での取組み

流域関係市の取組み

(1) 警戒避難体制の確立

はん濫解析結果により浸水エリアを抱える流域市では、

•「**避難勧告等の判断・伝達マニュアル※**」に基づき、皆さんの避難行動を支援しています。

※住民に対して避難のきっかけとなる情報(避難準備、避難勧告、避難指示)を適時適切に提供するための基準書

	発生時の状況
避難準備情報	・災害の発生する可能性が高まると予想された状況
一時避難情報	・避難行動を開始しなければならない段階であるが、予想される災害が自宅内や近隣のより安全な場所への一時避難で、町民の安全が確保される程度の場合
避難勧告	・避難行動を開始しなければならない段階であり、予想される災害が指定された避難所への立ち退き避難が必要となる程度の場合
避難指示	・前兆現象の発生や、現在の切迫した状況から、災害が発生する危険性が非常に高いと判断される状況 ・堤防の隣接地、斜面の直下等、地域の特性等から人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況 ・人的被害が発生した状況

今後の取組みとして

- 洪水リスク表示図等を基に、住民に対する説明会等を順次開催予定
- まちかどへの浸水・避難サインボードの設置を検討 など

(2) 流出抑制

雨水貯留・浸透施設の設置に対する助成

雨水を一時的に貯留させることにより、下水道や河川へ流出する水を減らし浸水リスクを軽減させる。

雨水貯留タンク設置、浄化槽の雨水貯留槽の再利用 など

大阪府住宅前【松原市】



まちかどへの浸水・
避難サインボード



雨水貯留タンク設置の例

④ 洪水はん濫・浸水の危険性と地域での取組み

個人での取組み

企業の皆様も地域住民の皆様も、洪水はん濫や浸水が起こった場合には、被害が最小限となる取組みを普段から行いましょう！

気象情報・防災情報への注意

テレビやホームページによる最新の気象情報・防災情報を入手し、チェックしましょう！

避難所・避難経路の確認

避難場所や避難経路は実際に歩いて確認しておきましょう！

排水溝の定期的な掃除

浸水被害の原因につながる排水溝のゴミ等を定期的に掃除しましょう！

垂直避難の検討

外への避難と2階以上への避難のどちらがよいかを考えておきましょう！

手作り土のうなどの準備

玄関や道路からの浸水を防ぐため、土のうを用意しましょう！

大事な物は高所へ移動

浸水に備えて、会社の設備、家電や貴重品は高所へ移動させましょう！

普段からの心掛け

「庭にはできるだけ土を残しておく」、
「雨水はためて庭の水まきなどに使う」、
「大雨のときにはお風呂の水は流さない」



④ 洪水はん濫・浸水の危険性と地域での取組み

地域での取組み

大阪府では、流域関係市と連携し、洪水だけでなく、地震津波や土砂災害時の地域特有の災害リスクも踏まえた町会単位等での地域住民が主体となった避難体制づくりに取組みます。

STEP 1 自主防災組織単位、小学校区単位による防災に関する勉強会の開催

STEP 2 自治会組織単位での防災に関する勉強会の開催

STEP 3 地域でのワークショップなどの開催

避難行動の検討
(防災マップ等の作成)



《ワークショップの開催》
住民自らの手で、避難時に必要となる情報の図面への書き込み等の活動

まちあるきの実施



作成したわかりやすい防災マップをもとに避難経路を実際に歩くことにより危険箇所を確認

防災訓練の実施



作成したわかりやすい防災マップを使った避難等の防災訓練の実施